

杉並第一小学校等複合施設整備にかかる基本的な考え方（案）について

学校の教育環境の充実を最優先とし、交通至便な立地条件を生かし地域の活性化や区民の利便性の向上を図るなど、地域から愛され続ける施設づくりを目指します。

1 杉並第一小学校の改築にあたって

杉並区内で一番長い歴史・伝統を継承、発展させるとともに、将来を見据えた教育環境の向上を図る。

○多様な教育に対応できる学習環境の整備

- ① 一斉指導、チームティーチング（TT）、個別・少人数指導、グループ学習など、多様な学習形態に柔軟に対応できる施設とします。
- ② ICT教育環境、校内情報ネットワーク、ラーニングセンター機能の充実など、「調べる」「学ぶ」「発表する」といった一連の学習が効果的に行える教育環境の充実を図ります。
- ③ 複合施設の機能を可能な限り有効に活用することで、学校教育活動の幅が広がる施設づくりを行います。
- ④ 子どもたちの体力向上が促進できるよう、現状と同等以上の校庭面積を確保するとともに、体を動かす場所として活用できる施設を充実していきます。

○安全・安心で、快適に過ごせる学習・生活空間の整備

- ① 学校の教室、諸施設等は低層階に配置し、児童の教室間移動の動線に配慮した学校づくりを行います。
- ② 不審者の侵入防止などの安全対策を十分に講じるとともに、多様な利用者が複合施設を利用することに伴う適切な動線計画に配慮した施設整備を行います。
- ③ 子どもから高齢者まで多様な人々が利用しやすいユニバーサルデザインを取り入れた学校とします。
- ④ 資源の再利用や自然環境に配慮した環境教育に資する学校とします。
- ⑤ 子どもたちの放課後等における健全育成環境の一層の充実を図るため、阿佐谷児童館内学童クラブ及び小学生の放課後等の居場所事業（放課後子ども教室）が小学校内で連携して実施できるよう必要な環境整備を行います。

○地域に開かれた学校づくり

- ① 地域の方々とのかかわりを深めながら、地域力を最大限に生かした教育活動が進展するよう、施設機能が十分に発揮される学校とします。
- ② 学校の教育活動や子どもたちの放課後の過ごし方等に支障がない範囲で、地域の方々を利用できる学校施設とします。
- ③ 災害時の地域の避難・復旧拠点として、必要となる防災機能が十分に発揮される施設とします。

2 新たな施設の整備にあたって

地域の人々が集い活動し、文化・教育の向上や区内産業を発展させる施設とします。

○複合施設の利点と交通至便な立地を生かした施設の整備

- ① 阿佐谷地域区民センターと産業商工会館の合築により、建設費用や運営経費を抑制するとともに、類似する機能を整理しながら必要な機能の充実を図るなど、複合化によるメリットを生かした施設とします。
- ② 地域コミュニティ活動の拠点施設としての利用とともに、大規模なイベントから個人の利用まで、様々な用途に活用できる施設を設置することで、幅広い世代が活動できる施設づくりを行います。
- ③ 駅から至近な立地条件を生かし、ホールや多目的展示室を活用した展示会やセミナーなどの開催により、多くの人々が訪れ、産業振興の拠点として活用できる施設とします。
- ④ 駅前の公共施設という立地を踏まえ、災害時には、帰宅困難者一時滞在場所として活用できる施設とします。

○学校と新たな施設との相互利用と教育活動における利用

- ① 複合施設という利点を生かし、ホール等の教育活動への利用や特別教室等を学校運営に支障がない範囲で区民が利用するなど、施設を相互に利活用し、共有化を図ることで、施設の有効活用を図ります。
- ② 学校、地域団体、産業団体等の相互の連携により、子どもたちのイベントや地域行事等への参加を通じて、体験的な教育が推進されるとともに、地域とのつながりが深まる施設とします。

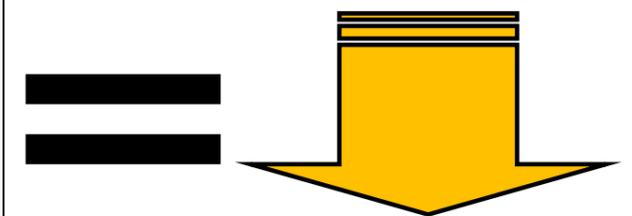
○阿佐谷地域のランドマークとなる魅力ある施設づくり

- ① セタまつりやジャズストリートをはじめとする地域イベントに活用するなど、阿佐谷のまちの魅力や文化を発信する施設として、まちのにぎわいを創出する施設とします。
- ② 産業振興と地域活動の拠点としての機能を併せ持つ、これまでにない施設として、区民の多様な活動を支え、地域の方々から親しまれる施設とします。



地域の最大規模の公共施設

地域資源を有効に生かした新たな学校施設の複合化のモデル



阿佐谷地域の新たなシンボル